

# S・M・C

Shizuoka Medical Communication

## 賢い患者になることって——大変かしら！

～私が静岡医療コミュニケーション研究会に入会して～

### ■ 友人に誘われて

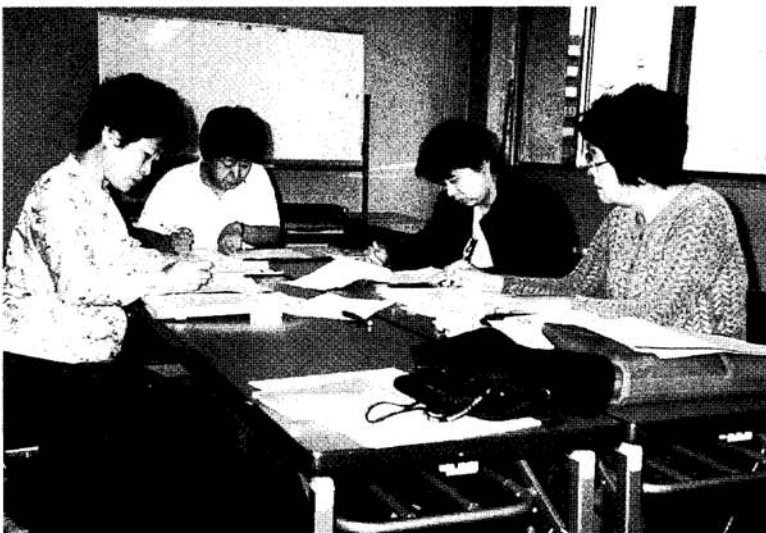
友人に誘われて模擬患者研修セミナーに参加したのは昨年の暮れでした。

出産以外に入院したことがない私にとって、医師と模擬患者役の人とのやり取りは見ているだけでドキドキしてしまいました。もし自分が受けた検査が悪い結果だったりしたら、医師の説明を冷静に聞くことが出来るのでしょうか、ましてや話の内容を理解して質問する余裕など到底あるとは思えません。それが模擬患者研修セミナーをはじめて見た時の率直な感想でした。

私の母も80代となり、「病院のかかり方ぐらい知っておかなければ…」という切実な状況のなか、静岡医療コミュニケーション研究会と出会ったことは本当に嬉しいことでした。

### ■ 模擬患者研修セミナー

模擬患者研修セミナーでは医師が患者役の人に病気について、また、検査が必要な理由につ



いて丁寧に説明していました。それを見て、長い間の患者と医療者の深い溝を埋めようと努力している人達のいることを知りました。インフォームドコンセントが社会の中に浸透しつつあるとは言え「説明が充分」でないために、後々まで意志の疎通が上手くいかないケースがあると聞きます。多くの医師にこうした体験を通して患者の気持ちに気付いて欲しいと思いました。

しかし私は病気になったことがありませんから、臨場感をもった演技はとても出来ないと考えてしまいました。

### ■ 市民啓発を選んで

模擬患者研修セミナーでは、インフォームド・コンセントやファシリテーター等難しい言葉がいきかい、いつまでついていけるかしらと不安になっていた頃以前私を会に誘った友人から市民啓発のことを聞きました。

最近では医療も患者が選ぶ時代になったと頭で理解していても、聞いたこともない病名や症状を耳にすると自分の身に置き換えて恐ろしくなってしまう。もっと自分の身体を自分で守る、自分の命に責任を持ちたいと考える時、患者が賢くなることが重要と思います。

初めて見たセミナーで若い医師が真剣に模擬患者に應對しているのを見て感動さえ覚えたことを思い出すにつけ、医療者側に求めるばかりでなく患者もより良い医療にむかって努力していくことを押し進めるお手伝いが出来たらと考えています。

市民啓発広報担当 吉川 佳代子

## S P (模擬患者)によるコミュニケーション教育を 看護教育の場に取り入れて

平成13年3月9日、本校では「看護学生のための模擬患者セミナー」を医療の場におけるコミュニケーショントレーニングの目的で開催した。このセミナーは、3学年合同講義の形式をとった。藤崎先生から患者とのコミュニケーションにおけるチェックポイントの講義を受け、そのスキルの基本を学んだ。その後、医療者と患者関係にあるコミュニケーションギャップにどう対処するかについて説明を受け実際にロールプレイに入った。医療者と患者関係の体験学習は約110人の学生がペアを組み、患者役の学生は患者役になりきる準備をした。一方、会場に残った看護婦役の学生は自己の立場を再認識した。このロールプレイの体験から看護婦役の学生は「わからない」と言えない不安や（答えなければ…）という強迫観念を自覚した。

その後、S Pを相手に2人の3年生が医療面談に取り組んだ。S Pの方はよくトレーニングされていて本当の患者が目の前にいらっしゃるような臨場感たっぷりの場面だった。看護婦役の学生は誠実に患者から情報

を得ようとし、患者の立場に立ち精神的なケアにも気を配っていた。それでも患者の認識を捉えきれず、自分の対人関係の持ち方を振り返っていた。会場内の学生もまた自分が看護婦であったらどんなコミュニケーションがとれるだろうと真剣に考えていたようである。終了後、S Pの方から直接評価が返され患者の認識が明確になり、学生たちにはよい学びの場になっていた。

今後も看護教育の場でS P活用法の可能性について研究していきたい。ありがとうございました。

静岡市立看護専門学校教官 高橋多佳子 望月志津子



## 浜松医科大学で臨床試験 (OSCE) を見て

5年生の卒業前のカリキュラムとして、実際の診察上で必要なマナーを学ばせたいので協力してほしいという依頼を浜松医科大学より受けた。S・M・Cから4名の模擬患者を派遣し、108名の医大生が医療面談を行うことになった。

今回学生に与えられた課題は心雑音の聴診、神経学的診察、腹部診察、心肺蘇生救急診療、そして医療面談の5つだった。医療面談の想定は「住民検診で糖尿病の疑いを伝えられた40才の主婦が不安を医師に訴える」というもの。検診の結果を見ながら論理的に説明したり、心配はいりませんと

やさしく答えたりという対応が見られた。中には上手に説明できずに患者をさらに不安な気持ちにさせてしまった学生もいた。

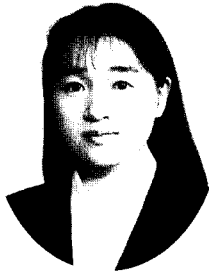
ひとりの模擬患者に対して25～27名の学生が面談する方式だったため、事前に練習をしていたとはいえ、模擬患者役は緊張の連続であった。また普段やっている口頭でのフィードバックではなく、5項目からなる評価シートに点数をつけていくことが難しかったという模擬患者が多かった。

市民啓発広報担当 名波早苗

# ちよつとのぞいてみませんか？

## ～医者と患者のやりとり～

7月29日午前10時からS. M. Cの勉強会として看護婦・薬剤師を相手に模擬患者研修を行い、午後1時30分から公開講座として医師とのコミュニケーションセミナーを開催。岐阜大学医学部藤崎助教授の総括説明もありました。(於：静岡市立静岡病院 参加者41名)



一年前、私の勤務する病院で開かれた「医療者向け模擬患者セミナー」において藤崎先生の講義を受けてから、患者さんと接する際には相手の立場になって考え患者さんの気持ちに共感できるように努めてきました。

しかし、現実には模擬診察の場で患者さんが心を開き始めたサインを見逃してしまい、聞いて欲しいと思っている話に耳を傾けることが出来ませんでした。

日頃の服薬指導でも自分の責任を果たそうとまず薬の説明をしてしまったり、こちらのペースで伝えたい事ばかり話してしまいました。

今後は患者さんの心理的社会的背景にもう一步踏みこんで会話をするように心掛け、安心でき満足の得られるコミュニケーションを目指したいと思います。

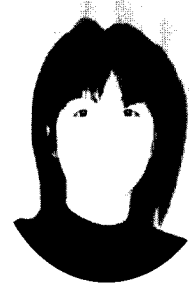
静岡済生会総合病院薬剤師 佐藤友里

研修会に参加してみて、自分が押しつけで身勝手だったことを強く認識しました。患者さんの迷いや悩みが分かっているにもかかわらずそのことは素通りしてしまっていて、結果だけ医療者側にとって都合の良いように導いてしまっている、納得してもらおうといった思いの働きかけの方が重要な仕事のように進んでしまう。この現実が根底に

根強くさも正しいかのように存在していました。

私はSPさんを前にオロオロし通してでした。恥ずかしい情けなかったこの気持ちを忘れず、研修の中での気づきをきちんと学習し実践していこうと思います。

静岡県立総合病院看護婦 桜井和江



インフォームド・コンセントが世間に知られるようになり、実際の医療現場でも「患者や家族への説明」が医師の仕事の中で大きなウエイトを占めるようになった。又インターネットなどの普及により患者の知識のレベルは一段と高まり、医師の説明する技量も増々問われる状況にあります。従って今回与えられた課題である「患者の家族に対する病気の説明」は、全ての医

師が必須で習得しなければならない技術であり、その技量を患者の視点から評価してもらえたことは私にとって大変貴重な経験となりました。

当日は大勢の方に見守られ相当なプレッシャーでしたが、一般の方や患者さんだから気付くような点を指摘され大変勉強になりました。

静岡県立総合病院医師 松山 泰

### 一般参加者の一言

○私がたまに医者に掛かるとき、先生とのコミュニケーションが悪くて、もの足りなさを感じてきましたが、今日の講座に参加して目からウロコが落ちた感がありました。相手が悪いという前に自分の接し方も考えてみます。

○試験内容もこのようなものを入れていく方向にあるのはよかった。

○気持ちは行動や言葉で伝えることが必要で、言い方は自然に身につくものではなく学ぶ時代ですね。

## 総会に参加して

5月20日(日)保健所の5階で総会が開かれました。平成13年度の事業計画案、予算案などが提出され新役員も承認されました。今年度から会費を徴収したうえで運営していくことになった等の説明もあって大変なんだと思いました。

私は静岡医療コミュニケーション研究会に友人に誘われて参加しましたが、皆さんボランティアなのに医療に対してすごく関心が高く、どうしたら患者と医師の意志疎通を充分なものにすることが出来るのか真剣に考えて活動しているのには驚いたり感心したりでした。今までボランティアと聞けば、身体を動かしたり何かのお手伝いをする事しか思いあたりませんでした。この会の様子を拝見して、お医者さんも患者の病気を治すばかりでなく、影で努力しているのだと深く感銘を受けました。医師に対しての見方も変わりましたし、自分が患者になった場合どれだけ賢い患者になれるのか自問自答してみても大変勉強になりました。

市民啓発広報担当 松浦美智子

## 総会で承認された事業計画

- ◎定例会 毎月1回模擬患者研修セミナー
- ◎全体会 定例会と同じ日に行う
- ◎市民啓発 広報紙発行に合わせて随時召集
- ◎病院等医療関係機関へのSP派遣
- ◎会費 月800円

## 臨床医学教育の交流セッションにて

岐阜大学医学部医学教育開発研究センターが主催した、第3回医学教育セミナーワークショップに参加して模擬患者参加型の臨床医学教育の交流セッション、セミナー全体会・分散会に出席しました。

全体会では医学生とSPの医療面接を見学し、フィードバックにおける注意点・問題点について意見交換をしました。

分散会では模擬患者参加型の教育のあり方、SPの役割について話し合いました。出来たらよいなあと思うこと、困っていること、教員・学生・SPそれぞれの立場から要望や意見が出され、学ぶことの多いものでした。

今回参加の学生の中に社会人を経験された方がいて一年生でしたが医学的知識が不完全であっても、基本的なコミュニケーション能力でカバーし、SPに好感をもたれていたのが印象的でした。

OSCEを5、6年生に限定せずもっと低学年から模擬診察をカリキュラムとして加えてもよいのではないかと思います。

岐阜大SPグループ・名古屋医療生協SPグループ・静岡医療コミュニケーションのそれぞれの個性もありますが、自分の考えを他人に伝える言語能力を、医学生と共にみがき合って、互いに成長していくことが出来ると思います。これからのSP活動に役立った勉強会でした。(2001年8月29日～30日 岐阜市ふれあい会館)

参加者 森田みつ子・扇 みよ子・気田千恵美  
大村節子・滝浪信恵

## SMCのリーフレット完成

### あなたにも出来る模擬患者

病院などで受診する際、まず御自身の自覚症状や病歴について確実に医師に伝えていますか？

又医師から病名や治療方法について詳しく聞いていますか？

模擬患者(SP)の練習会を見学して、自分が病院にかかった時のことを今一度見直してみてください。

### あなたも仲間になりませんか？市民啓発

自分が病気になると、健康な時には考えられなかった色々なことがおこってきます。健康な時こそ医療に関心を持って、賢い患者になりましょう。

### ご協力いただいている医療関係機関

- ◎静岡県立総合病院
- ◎静岡赤十字病院
- ◎静岡市立静岡病院
- ◎藤枝市立総合病院
- ◎静岡済生会総合病院
- ◎静岡市医師会

## セミナー予定

### 医療者が語る本音！

～医者は病気を治しているわけではない～

講師：藤枝市立総合病院院長 金丸 仁氏

とき：平成13年10月14日(日)

ところ：アイセル21 4階研修室

発行

静岡医療コミュニケーション研究会事務局

代表 森田みつ子

〒420-0882

静岡市安東1-22-25

Tel・Fax 054-248-0348